

# 学びのR

No.13 (平成31年2月)  
埼玉県教育局南部教育事務所  
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

## \*\*\* 「主体的・対話的で深い学び」で授業改善③ \*\*\* ～体育・保健体育の学習指導の充実～

\*今回は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、体育・保健体育の授業改善を考えます。

体育・保健体育科では、「見方・考え方」を働かせる学習過程を工夫することにより、体育・保健体育科で育成を目指す資質・能力がより豊かになり、体育・保健体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成につなげることを目指します。

### 「体育の見方・考え方」

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。

### 「保健の見方・考え方」

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。

### 【子供の姿】

- 日常生活に運動を行う時間を確保。大会などボランティアとしての参加や観戦。オリンピックなどについて調査。
- 生活習慣・生活環境の改善。家族や友人への健康についてのアドバイス。交通安全等への意識改革と実践。

\*「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する観点から、小学校から高等学校までの12年間を見通して指導していくことが大切です。

学年	小1, 2	小3, 4	小5, 6	中1, 2	中3	高校
発達の段階	各種の運動の基礎を培う時期		多くの領域の学習を経験する時期		卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期	

\* 次の視点等を踏まえて授業改善を行うことも大切です。



### 【主体的な学び】

運動の楽しさや健康の意義等を見出し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、学習を振り返るとともにそれを考察し、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すこと。

### 【対話的な学び】

運動や健康について課題の解決に向けて、児童生徒が他者(書物等を含む)との対話を通して、自己の思考を広げ深め、課題の解決を目指して学習に取り組むなどの対話的な学びを促すこと。

### 【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程を通して、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するための深い学びを促すこと。

- \* 資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたいもするものです。
- \* 体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方やかわり方を共有することができるよう、共生の視点を踏まえて指導内容が示されていることに留意する必要があります。

**主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導の例**

**新中学校学習指導要領解説 ～E 球技[第1・2学年] A ゴール型 ボール操作について～の例**

\* 指導に際しては、ボール操作では相手や味方の動きを捉えることが重要となるため、周囲を見ながらプレイさせることが大切である

**～導入の工夫～**

**教師の仕掛け** マークされていない味方にパスを出すには？

**予想される児童生徒の反応**

\* 発問形式で本時のねらいを提示することにより、子供たちが「簡単だな」「どうということだろう」など自分事の課題として受け止めることができる。

**～課題設定～**

**教師の仕掛け** 練習例を提示した上で話合いの場を設ける。

- ①一定方向に走りながらのパス練習
- ②コート内を自由に動きながら条件にあった味方へのパス など

\* 話合いには視点をもたせることが必要。

**(例)周囲を見てプレイし、味方へパスを出すのに必要な練習は？**

**予想される児童生徒の反応**

\* 個人やチームの状況を考え、①か②のどちらかを選択。  
②を選択【理由】「ある程度思っているところにパスは出せる。そのため、パスの条件にあう動きをしている味方

にパスを出すことができるようにした方がよい。」

\* 視点がはっきりしていれば、根拠をもって選択した理由を伝えることができる。

**～運動量の確保～**

**教師の仕掛け** 課題解決に向けた練習時間と成果を発揮できる試合時間を！

\* 解説にある「人には誰でも学習によって体力や技能が向上する可能性があるといった挑戦することの意義」を理解させ、体育必携にあるように「思いっきり汗をかく」活動を行わせる。**練習中は声掛けが大切！**

**予想される児童生徒の反応**

\* 練習を行っていくと、「上手くいった」「思うようにできない」ことがでてくる。技能の定着へ向けてしっかり練習・試合をするとともに、課題についても考え直し、よりよい解決方法を考えることができる。

**～見方・考え方を働かせた深い学び～**

**予想される児童生徒の反応**

\* 「仲間の技能に応じたパススピード」を考えたり、「ボールを持っていないときの動き」を考えたりする。また、「スポーツ観戦の視点」をもつことで、観戦が楽しくなり、豊かなスポーツライフにつながる。

\* 授業力向上ミニ講座 \*

【よい授業のための基礎的条件】

- ①学習従事時間が確保されている
- ②学習の規律が確立している
- ③教師の肯定的な働きかけがみられる
- ④児童生徒の情緒的解放や学習集団の肯定的な関わりがみられる

【よい授業のための内容的条件】

- ①学習目標（めあて）がはっきりしている
- ②教材や場づくりの工夫がみられる
- ③学習方法の形式は多様である
- ④教師の指導性が明白である

※高橋，1994に一部加筆

引用・参考 「小学校学習指導要領解説 体育編」、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省  
「埼玉県小学校教育課程編成要領」、「埼玉県中学校教育課程編成要領」、「学校体育必携 第59号」  
埼玉県教育委員会



「学びのR」  
はこちらからも  
御覧いただけます！

